

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立高木瀬小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価では、14項目のうち高評価となった。中間評価での取組反省を生かして、現状を変えようとする教職員の意識化と具体的な改善（強化）策が図られたためと、学校生活ではある程度達成できている「自主学習」「履物そろえ」が、家庭生活ではなかなか実践できていない。また、相手を尊重した「さん付け」は、児童・保護者とも評価が低い傾向にあった。学校での取組内容について、より多く・より詳しく保護者に対して情報発信を行い、理解と協力を得ることが必要である。今後は「いつで考える。提案する部会単独での努力ではなく、チームとして全職員が取り組むことの大切さを実感できた。 本校の特色である「無言・無音掃除」「高小流あいさつ」は、良き伝統・習慣として定着している。また、佐賀市人権・同和教育の実践交流会の研究校として進めてきたが、児童同士が相互理解を深めるような活動を仕組んだり指導をしたりしたことで、児童の自己肯定感の向上に大きな成果を得ることができた。 学校生活ではある程度達成できている「自主学習」「履物そろえ」が、家庭生活ではなかなか実践できていない。また、相手を尊重した「さん付け」は、児童・保護者とも評価が低い傾向にあった。学校での取組内容について、より多く・より詳しく保護者に対して情報発信を行い、理解と協力を得ることが必要である。

2 学校教育目標	<h2>個性と創造性に富む子どもの育成</h2> <p>～「時を守り 場を清め 礼を正す」をキーワードに～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>「郷土愛の育成」「ほめほめ活動の推進」「『時を守り 場を清め 礼を正す』の徹底」が本校の特色である。これらの特色をより強固にしなが、児童がこれからの時代を豊かに確実に生き抜くための資質・能力を育む。</p> <p>○「時を守る」・・・「時間を自己管理する」 ○「場を清める」・・・「誰もが気持ちよい環境をつくる」 ○「礼を正す」・・・「相手を尊重し、礼儀正しくする」 ○「時・場・礼」の基盤・・・「早寝早起き朝ごはん」「あいさつプラス1」</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○現行学習指導要領の理念を理解し、実践することにより授業の向上を図る。	○校内研究に能動的に参加し、教師全員が学習課題を立て授業に臨むことができる。	・校内研究を充実し、現行学習指導要領の理念を理解する。 ・教師全員が学習課題を立て授業に臨む。	A	・現行学習指導要領の理念に基づいた授業づくりについての共通理解を図るため、研究主任を中心に校内研修を月に2回行ったり、校内研修係りを週1回回配したりした。小規模の小規模の場を設けていたことで、職員全体が、「学習課題」を活用した授業に臨むための準備をすることができ、実践が見られ始める。 ・今後、校内研修や校内研究係りをもとに職員全体の共通理解を図っていく。	A	現行学習指導要領の理念に基づいた授業づくりについての共通理解を図るため、研究主任を中心に月2回の校内研修と、週1回の校内研修係りの配布を継続して行った。研究主任を中心に、「学習課題」を活用した授業実践・実践報告を行ったことで、「単元を通して指導する」意識が、職員全体に醸成された。また、「学習課題」を活用した授業づくりにより、指導事項が明確化され、見直しをもった指導が行えるようになった。			まなび部
	○児童が自ら進んで学習活動に取り組む授業の実践	○「学びに向かうチェックリスト」を作成する。 ○[自律的に学習に取り組んでいる]を80%以上にする。	・「児童の学校アンケートでは、71%の児童が、自律的に学習に取り組んでいると答えている。自分で自分の必要な学習ができることを目的に「まるごタイム」を見直し「かつおプラス」とした。また、担任だけでなく、他のクラスや級外の教師による声掛けや指導も継続して、小まめに行っていく。	B	・児童の学校アンケートでは、71%の児童が、自律的に学習に取り組んでいると答えている。自分で自分の必要な学習ができることを目的に「まるごタイム」を見直し「かつおプラス」とした。また、担任だけでなく、他のクラスや級外の教師による声掛けや指導も継続して、小まめに行っていく。	A	アンケートでは、86%の児童が、自律的に学習に取り組んでいると答えている。期間は、1人1人が自ら「まるごタイム」で学ぶようになり学習した上で、心ゆとりが生まれ、その後の授業に集中して学ぶようになった。児童は、「かつお」の取り組みの継続と、まの進し方のよいモデルを職員や児童間で共有し合っている。振り返り学習しよとする意識を醸成していた。また、学校・学年全体で、児童の学習や活動の様子を確認していたことで、家庭からの協力も得られ、児童の学びに向かう意識が向上した。			まなび部
	○児童が自ら進んで取り組む家庭学習の充実	○「目的をもって家庭学習に取り組んでいる。」と答える児童を80%以上にする。	・「おすすめ自学」を年2回発行する。 ・毎月、目的が意識された自学をコメントを入れて掲示する。 ・保護者へ家庭学習の目的や効果的な取組み方について啓発を行う(年2回)。	B	・児童の学校アンケートでは、79%の児童が、自ら進んで家庭学習に取り組んでいると答えている。自主学習ノートでは、玄関や教室、廊下に掲示版を用意することで、参考にしながら取り組む児童が増えた。今後も、他児童のお手本となる自主ノートや、自学メニュー表を参考に自学に取り組ませていることを継続して行っていく。	A	学校アンケートでは、84%の児童が、自ら進んで家庭学習に取り組んでいると答えている。自主学習ノートでは、玄関や教室、廊下に掲示版を用意することで、参考にしながら取り組む児童が増えた。今後も、他児童のお手本となる自主ノートや、自学メニュー表を参考に自学に取り組ませていることを継続して行っていく。			まなび部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・児童の良い行いやがんばっていること等の「ほめほめタイム」で教師が5人以上紹介する。 ・全職員が輪番で各クラスに入り、いじめ・命についての話を。 ・平和週間や人権週間の取り組みを通して、平和と人権を定めていくとする態度を育て、児童の思いや意識を提示する。 ・毎月「このころのアンケート」を実施し、児童の心の状態を把握し、いじめの早期発見に努める。その記載内容に全て対応し、早期解決に努めると共に管理職への報告を行う。 ・気がかりな児童については個別の対応を継続し、毎月の生指相会議で職員間の情報共有を図る。	A	・「児童同士が相互理解を深めたり、豊かな心をほぐむような活動を仕組んだり指導したりしている。」にあてはまると答えた教師が94%であった。 ・平和週間では、各学級や学年で平和学習を実施した。児童の感想を提示することで、平和について考えたことや意見を交流することができた。	A	・「児童同士が相互理解を深めたり、豊かな心をほぐむような活動を仕組んだり指導したりしている。」にあてはまると答えた教師が94%であった。 ・人権週間では、全校でゼンジンやアワーカードほかの取り組みも、それぞれの活動で人権について意識することができた。人権集会では、他学年の発表を見て、人権について考え交流することができた。			こころ部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている。」と答える児童を90%以上にする。	・「友達と楽しく学校生活を送っている。」にあてはまると答えた児童が86%であった。 ・毎月の「このころのアンケート」により、児童の生活の実態把握をして対応することがまだ不十分で、アンケートの活用も努めていく。 ・気がかりな児童については、生指相会議で全てで情報共有することができ、個別対応の仕方について話し合いが必要である。	B	・「友達と楽しく学校生活を送っている。」にあてはまると答えた児童が86%であった。 ・毎月の「このころのアンケート」により、児童の生活の実態把握をして対応することがまだ不十分で、アンケートの活用も努めていく。 ・気がかりな児童については、生指相会議で全てで情報共有することができ、個別対応の仕方について話し合いが必要である。	A	・「友達と楽しく学校生活を送っている。」にあてはまると答えた児童が94%であった。 ・「このころのアンケート」では、児童の心の内に気付くことができ、早期に対応することができた。 ・「気がかりな児童については、生指相会議だけでなく、学年で情報共有し、管理職とともに対応することができた。			こころ部
	○無言・無音掃除の徹底	○児童が、「無言無音掃除」の必要性を十分に理解し、「話もせず音も立てず」掃除をしている。」と答える児童を、80%以上にする。	・「無言無音掃除」の必要性を十分に理解し、「話もせず音も立てず」掃除をしている。」と答える児童を、80%以上にする。	・「無言無音掃除」の必要性を十分に理解し、「話もせず音も立てず」掃除をしている。」と答える児童を、80%以上にする。	A	・「無言無音掃除」の必要性を十分に理解し、「話もせず音も立てず」掃除をしている。」と答える児童を、80%以上にする。	A	・「無言無音掃除」の必要性を十分に理解し、「話もせず音も立てず」掃除をしている。」と答える児童を、80%以上にする。		
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝早起き朝ごはん」を意識して生活している。」と答える児童を休日を含め80%以上にする。	・すこやか点検表の項目に「10時をめぐり就寝」「決めた時刻に起床」「朝食摂取」を入れ、長期休業前後を中心に実施する。 ・保護者へ、給食便り等で、早寝早起き朝ごはんの大切さを呼びかける。	B	・5月、7月のすこやか点検では、80%以上が「早寝早起き朝ごはん」について実施しているという結果が出ている。学校評価での児童の中間評価では、71%が意識していると答えている。しかし、実際は「遅刻が多い」「寝不足で授業中に居眠りする」「朝ごはんを十分に食べていない」などの児童が多い。更に早寝早起き朝ごはんの大切さをすこやか点検や学校だよりなどで呼びかける。	A	・学校評価の最終評価では、児童の82%が意識していると答えている。『早寝早起き朝ごはん』の大切さをすこやか点検や学校だよりなどで呼びかけた効果である。だが、中には「遅刻が多い」「朝ごはんが十分ではない」児童がいる。今後もすこやか点検や学校だよりで呼びかける必要がある。			からだ部
	○「運動習慣の改善や定着化」	●「『歩いて登校している』『よく運動したり、外で遊んだりしている』と答える児童を80%以上にする。	・学校だよりや学級通信で『歩いて登校する』ことの大切さを呼びかける。 ・体育の授業で運動の楽しさを体感させる。 ・スポーツチャレンジを推進する。	A	・「歩いて登校している」「よく運動したり、外で遊んだりしている」と答える児童を80%であった。『歩いて登校することの大切さについて、学校だよりや学級通信で呼びかけているが、高小には保護者の意識が高いので、親・保護者や児童に呼びかけていく必要がある。朝・時間外・休み時間以外で元気に遊んでいる児童が多いが、特定の児童で定まっているので、これからも呼びかけていく。	A	・学校評価の最終評価では、児童の87%、保護者の80%が意識していると答えている。1学期より保護者の送迎は減っている。休み時間以外で元気に遊ぶ児童は増えている。今後も学級を中心に呼びかけていくことが必要である。			からだ部
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・年度途中で必要があれば業務の専任化を図る。 ・「成績を期制」を継続実施し、評価時期には約10日間の特別時を設ける。 ・会議数(時間)や協議内容を精選するとともに、業務等の役割分担による教材・資料の共有化を進める。 ・リーバーのメッセージ機能の活用を保護者に紹介する。 ・卒業後で業務を公開したり、資料を共有し易くする。	B	・月45時間を遵守している教職員が34%と少ない。8月に働き方に対しての研修を行ったが、浸透していない。コロナ禍を契機として、学校行事等の精選を図ったが、大規模校としての教職員数の多さを生かした業務分担(分散)や相互サポート体制、IT化を進めたりして、働きがいのある学校づくりを目指していきたい。	B	・月45時間を遵守している教職員が60%と中間評価に比べ、倍近くなっている。減少傾向にあるが、業務改善(効率化)のスキルが必要な職員もいるため、今後も積極的に管理職や同僚の支援を続けていきたい。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育「ほめほめ活動」	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたの良いところを認めてくれると思う」と回答した児童生徒80%以上。 ●◎「将来の夢や目標を持っている」についての肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・給食の時間に「ほめほめタイム」を実施し、全校児童を呼んでほめ合う。 ・ワークシートや作品、宿題などに、過程や意欲に対する肯定的なコメントを記す。 ・学級活動で必ずキャリアに関する指導を行う。	B	・給食時間に「ほめほめタイム」を実施し、「時・場・礼」の学校教育目標の観点に沿ってほめてきた。今のところ「友達の良いところを認め、ほめている。」と答えた児童が78%だった。今後、全校児童が「ほめほめタイム」で紹介できるように継続していく。将来の夢や目標を持つことについて肯定的な回答をした児童生徒80%であった。	A	・給食時間に「ほめほめタイム」を実施し、「時・場・礼」の学校教育目標の観点に沿ってほめてきた。今のところ「友達の良いところを認め、ほめている。」と答えた児童が86%だった。今後、全校児童が「ほめほめタイム」で紹介できるように継続していく。児童のやる気を喚起して、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%であった。			主幹教諭 指導教諭 教頭
○郷土愛を育てる活動	○佐賀や日本の導き手を育成するための地域(家庭)の協働意識の向上	○「学校は地域(家庭)と連携して、特色ある教育活動を行っている。」と答える児童を75%以上にする。	・地域やPTAとの連携を図り、参加・参画を依頼する。児童が地域行事に参加しやすいよう、地域やPTAからの情報を学校でも伝える。 ・職員も年間3回を目標に、PTA・地域行事(夏祭り、秋フェスなど)に参加・参画を呼びかける。	B	・「学校は地域(家庭)と連携して、特色ある教育活動を行っている」と答える児童が71%だった。アタゴコロでPTA行事(夏祭り、秋フェスなど)の再開にあたって、児童の出席を設けた。職員も年間3回を目標に、PTA・地域行事(夏祭り、秋フェスなど)に参加・参画を呼びかける。	A	・「学校は地域(家庭)と連携して、特色ある教育活動を行っている」と答えた児童が87%だった。町主催の夏祭りでは6年生が中心となりクイズ大会を開催したり、フリー参観ではPTAと地域と協力して公民館巡りを行ったりすることができた。PTA主催の秋フェスにも多くの児童が参加するなど、地域・家庭・学校が連携して取り組んだ成果が表れている。			指導教諭 教頭 主幹教諭
○人間形成の土台づくり	○「時を守り 場を清め 礼を正す」態度の育成	○「『時を守り 場を清め 礼を正す』に気を付けて生活している。」と答える児童を90%以上にする。	・朝の放送、昼の放送の時に、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を言い、常に児童に意識させている。朝の放送、昼の放送の時に、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を言い、常に児童に意識させている。朝の放送、昼の放送の時に、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を言い、常に児童に意識させている。	B	・朝の黙想や昼のほめほめの放送で「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を言い、常に児童に意識させている。朝の放送、昼の放送の時に、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を言い、常に児童に意識させている。	B	・朝の黙想や昼のほめほめの放送で「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を言い、常に児童に意識させている。朝の放送、昼の放送の時に、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を言い、常に児童に意識させている。			主幹教諭 指導教諭 教頭

5 総合評価・次年度への展望	<p>●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育</p> <p>・中間評価では、14項目のうちA評価は4項目であったが、最終評価では、A評価は10項目となった。中間評価での取組反省を生かして、現状を変えようとする教職員の意識化と具体的な改善（強化）策が図られたためと考える。提案する部会単独での努力ではなく、チームとして全職員が取り組むことの大切さを実感できた。</p> <p>・本校の特色である「時を守り 場を清め 礼を正す」は、文言としてはしっかり覚えているが、実際の具体的な指導が不足し、マンネリ化している。発達段階に応じて日常的に意味付けをしなが指導することで、人格を育て、才能を引き出し伸ばしていく。また、「ほめほめ活動」などを通して児童同士が相互理解を深めるような活動を仕組んだり指導をしたりしたことで、児童の自己肯定感の向上に大きな成果を得ることができた。</p> <p>・学校生活ではある程度達成できている「無言・無音掃除」「履物そろえ」が、家庭生活ではなかなか実践できていない。学校での取組内容について、より多く・より詳しく保護者に対して情報発信を行い、理解と協力を得ることが必要である。</p>
----------------	--